

「視線入力装置と Microsoft PowerPoint を活用した主体的なコミュニケーション方法について」(自立活動)

【ねらい】

- ・内言語が豊富な生徒が、自分から他者に声をかけること(主体的なやりとり)ができるようにする。
- ・視線入力装置を活用することで、筋緊張で制限される手の動きや発声以外のコミュニケーション手段を獲得できるようにする。

【内 容】

- 1 Microsoft Power Point でコミュニケーションボードを作成する。
- 2 各項目(「会話」「身体・移動」「学習」)にはそれぞれリンクを貼り、1秒間見続けることで指定したページに進むように設定する。
- 3 各項目がどのようにつながっているのかが分かるように、階層表を作成する。
- 4 作成したコミュニケーションボード(簡易版)を担当と共有し、活用について検討する。(操作に慣れるために、朝の会でも視線入力装置を活用するようにする。)
- 5 視線入力装置の操作が慣れてきたら、実際にコミュニケーションボードを活用する。



コミュニケーションボード 階層表

第1階層	第2階層	第3階層	第4階層
身体・移動	移動	乗る	...
		降りる	...
		乗える	...
		トイレ	...
会話	楽しい(楽しい)	手	...
		足	...
		顔・表情・声	...
	挨拶	おはようございます	...
		こんにちは	...
		さよなら	...
	気持ち	楽しい	...
		普通	...
		悲しい	...
		怒る	...
学習	出来事	昨日の学習	...
		今日の学習	...
		明日の学習	...
		(ビデオ)	...
	朝の会	挨拶	おまりの歌いさつ
		応援・体操	終わりの歌いさつ
		天気	ほい、元気です。
			ほい、元気ないです。
			誰か
			誰か
移動中	移動中	おまりの歌いさつ	...
		終わりの歌いさつ	...
		終わりの歌いさつ	...

【参考資料】

- ・2018年度さいたま市立ひまわり特別支援学校研修資料(講師:下川 和洋 様)

【成 果】

- ・他の教員に、作成したものを見せ、意見をもらうことで、生徒よりの使いやすいものに近づいたとともに、教員同士、情報を共有することができた。
- ・生徒の車いすの位置や角度、視線入力装置の位置や傾き等、実際に生徒の立場になって深く考えることができた。
- ・コミュニケーションボード(簡易版)を活用するまでには至らなかったが、生徒が朝の会で毎日視線入力装置を抵抗なく使用できるようになり、コミュニケーションボードの活用に1歩近づくことができた。
- ・操作に慣れたら、今後、1ページに提示する項目を増やすことで、階層を浅くしていく。